

# JR東海労ニュース

No. 848

2006年10月 4日

JR東海労働組合

**JR東海ユニオン指導部よ！**

**会社の代弁しかできない**

**「お前たち」こそ「腰抜け」だ！**

JR東海ユニオンは「組織情報No.474」で、私たちが「運輸系統社員の運用変更」に対して妥結通告したことに、労働組合とは思えない「ケチ付け」を行っている。その主張は、まさに会社の主張の代弁そのものである。「妥結をしたらその後は文句を言わず黙って働け」ということを尻押しする以外のなにものでもない。妥結をすることと、その後発生する問題点などについて改善を求めることは、別問題であり労働組合としては、ごく当たり前の対応である。

JR東海ユニオン指導部よ！ 「お前たち」が早々と妥結して以降この一年半で、どれほど多くの若手社員が不満を抱いているのか耳を傾けたことがあるのか。手当が減額されたことに不満はないのか。嫌気がさして「退職の道」を選択せざるを得ないところまで追い込んでいる事実をどうするのか。「自己都合だ」とでもいうのか。私たちは、多くの問題点解決と職場の声を反映するために闘っているのである。「ケチ付け」をする暇があったら労働組合の責任を果たすべきである。「電話相談ダイヤル」を開設する前に、職場で悔しい思いをしている組合員の先頭に立って管理者に「文句」の一つも言うべきではないのか。

**真っ先に妥結したユニオンよ！**

**お前たちに「腰抜け組合」という資格はない！**